



本から広がる世界 この夏は図書館へ!

さまざまな本が並ぶ図書館は、世代を問わず活用することができる地域の拠点です。子どもが楽しむことのできる本から、郷土を知るうえで大切な資料まで、多くをそろえています。いろいろな場面で図書館を活用してみたいかをご紹介します。

本は私たちに多くの知識や経験、そして普段体験することのできない驚きや感動を与えてくれます。こうした素晴らしい本に身近に出会える場所が図書館です。深谷市の図書館は37万冊（平成29年3月31日現在）を超える蔵書数を誇り、毎日たくさんの方が本を求めて来館しています。

背を見て育つ『読書習慣』

子どもの読書習慣は、生活習慣を通して形成されます。普段から周りに読書を一緒に楽しんでくれる大人がいると、自然と子どもたちは本に興味を示していきます。子どもにとって最も身近な読書環境である『家庭』。家庭の中で身近な大人が読書を子どもと一緒に楽しむことで、本を楽しむ子どもを育て、豊かな心を育むことに繋がっていきます。

そこで、深谷市では『家庭』に注目し、子どものころから読書に親しむことのできる取り組みを始めています。

花園小学校のすぐ近くにあるよ

深谷の特色ある図書館を紹介 花園こども情報交流図書館 アクロス



花園こども情報交流図書館アクロス（花園図書館）は、市内の図書館の中でも、特に児童書が充実しています（蔵書の約6割が児童書）。

また、館内は県産木材が多く使われ、木のぬくもりに包まれた施設です。『こども』と名を冠して、子ども向けにつくられた図書館は珍しく、県内では深谷市以外に北本市・飯能市しかありません。

定期的におはなし会なども開催しているため、ぜひご来館ください。

※図書館などの市内で開催しているおはなし会の情報は毎月広報ふかや22ページに掲載しています。



▲木材が使われた館内。子ども向けにボランティア手作りの『布の絵本』も置かれています。

『家読』が紡ぐ家族の輪

深谷市では、今年度から『家読』という取り組みを始めました。家読とは『家庭読書』の略語で、今、全国で広がりを見せ始めている取り組みです。家読の基本的なルールはただ一

つ。『好きな本を家族みんなで読み、その内容を話し合う』ことです。本を通じて、家族で同じ話題ができる取り組みです。

普段、時間を取ることができず、じっくり本を読むことができないというかたも、この夏は『家読』で子どもと一緒に読書に取り組みのために、まずは図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

みんなで楽しむ『必読書』

また、図書館では、現在『深谷必読書（仮称）』の策定を進めています。『深谷必読書』は、乳幼児から高校生までの世代が読むことを想定した本で、市内の団体や教師、有識者で構成される協議会で検討を重ねています。

現在、市ホームページ（[F](#)）『深谷市 オススメ本』で検索）で検討の参考とするため広く本を募っています。読書は、読むこと自体も面白いですが、本を読んだ感動を共有することも違った面白さがあります。ぜひ、皆さんのお気に入りの本を教えてください。



プールも外遊びもいいけど
今日は図書館で。

①深谷図書館の児童書コーナーで乗り物の本に夢中の双子の男子。 ②定期的に図書館で開催しているおはなし会の様子。おはなし会やブックスタートなどは、ボランティアさんの協力で開催しています。 ③おはなし会が始まると、話し手の身ぶりや声に子どもたちは目を奪われます。



②



③

図書館は、熱中症予防のために休憩できるクールオアシスにもなっているよ！
熱中症に気を付けて来てね！



市内全図書館で貸出・返却

図書館に必要な資料がない場合、深谷市内や県内の別の図書館から資料を取り寄せて貸し出すサービスを行っています。申し込み方法などはカウンターの職員へお尋ねください。また、返却も図書館のほか、キララ上柴内のL・フォルテ図書室および深谷駅市民サービスセンター（午前9時～午後5時）で受け付けています。

特集 1日40gで変わる『ごみ事情』

雑紙の正しい出し方

雑紙を資源物としてごみ収集所に出すときには、以下のようにまとめて出してください。普段から、不要な紙袋などに入れるような習慣にしておくことで簡単にまとめることができます。

- 雑紙の一例
- ・コピー用紙
- ・紙袋
- ・包装紙
- ・ポスター
- ・名刺
- ・ハガキ
- ・ノート など



(注意) 汚れや強いにおいがついた紙や防水加工された紙などは雑紙として収集することができません。雑紙の適切な処理にご協力をお願いします。

捨てれば『ごみ』、分別すれば『資源』。ごみを減らすためには『分別』も有効です。適切な分別は、ごみを減らすだけでなく、資源が集まり、再生紙やリサイクル製品として新しい命が吹き込まれて私たちのもとに戻ってきます。

捨てているものの中にも大切な資源 『雑紙』のリサイクルでごみの減量

普段、何気なくごみを捨てていませんか。燃やせるごみで捨ててしまっているものの中には、大切な『資源』が隠れています。例えば『雑紙』がその代表例です。雑紙とは、家庭で出される古紙のうち、新聞紙、雑誌、ダンボール、飲料パックのいずれにも属さないものを指します(上記参照)。深谷市では、毎週木曜日を『資源物の日』として、雑紙をはじめとした資源物を収集しています。また、新聞紙なども同時に収集しているため、改めて適切な収集へのご協力をお願いいたします。

できることから少しずつ

ごみ出しは生活の一部です。無理にごみを減らしても長続きしません。まずは『無理なくできることから始めること』が大切です。分別やごみ出しのマナーアップなどを通じて改めて普段のごみ出しに意識を向けてみませんか。



深谷市で2026年度の削減目標(2015年度比)としている1人1日40gのごみの重さを視覚化しました。

1日40gで変わる『ごみ事情』

深谷市では毎年5.6万トンを超えるごみを処理しています。最近、簡易包装化や資源化などが進んだ結果、減少傾向ではあるものの依然として多くのごみが出ています。

私たちが生活するうえで、ごみはとても身近なもの。今月の特集では、そんな身近なごみの現状をお知らせします。

家庭で出す『ごみ』を1日40g減らすと大きな効果!!

※1人1日当たりの資源物を除く家庭ごみ=702g(2015年度の数値)

深谷市では2026年度に2015年度よりも1人1日40gの削減を目標にしています。資源物を除いた家庭ごみを1人1日当たり40g減らすことで、家庭ごみ全体で2026年度では2,436トンの削減(2015年度比)ができます。

2,436トンをごみ収集車で換算すると・・・

ごみ収集車/ **1,218**台分

※紙面に掲載している値は、『深谷市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画』をもとに記しています。

使用済小型家電リサイクル

問い合わせ 環境衛生課 ☎585-2215

毎月各地区1回、使用済小型家電を収集しています。電子レンジや扇風機などの小型家電に含まれる有用な部品を再利用し、資源のリサイクルにつなげます。

なお、使用済小型家電収集日は、『燃やせないごみ』の収集はありません。

収集日は毎月1回!

- 深谷地区=毎月2回目の水曜日
- 岡部・川本・花園地区=毎月2回目の金曜日

都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト

主催:東京2020組織委員会

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルに、使用済小型家電に含まれるリサイクル材が活用されます。

- 回収方法
 - ①ボックス回収=市役所本庁舎総合案内および岡部総合支所環境衛生課
 - ②宅配便回収=リネットジャパン(株)による宅配便回収
- ※詳しくは市ホームページをご覧ください。問い合わせ先へ。